

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201025		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム三保松原(1F)		
所在地	静岡県静岡市清水区三保2432-2		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2274201025-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お1人お1人の想いの実現のために」というビジョンのもと、その人の想いを知る為にその人のことを深く知ることが重要だと考えています。相手の立場に立ち、まずは、ストレスを与えないケアを心がけ、その方の想いに寄り添える関係作りに努めています。又、ただの施設利用者ではなく、地域住民として生活していただくために、海岸清掃活動を定期的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世界遺産となった三保松原にほど近い事業所で、目の前の道路には観光バスが頻回に訪れるようになりました。“三保をきれいにし隊、と銘打って毎月利用者と共に海岸清掃を行ってきましたが、継続してきた誇りと、これからも人の役に立ちたいという想いを広く発信したらどうかとの声があがり、新聞社から取材の話も出ています。利用者全員で役割を担う週に一度の掃除、洗濯物干しや片付け等、生活リハビリを通して生き活きと暮らす様子は法人内の“ふれあいあったかフォトコンテスト、で入賞した作品に示されています。本年度は新たに排泄・環境美化・行事の委員会を作り、職員の今後の成長が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、出社時に唱和して全員が意識できるよう努めている。	職員個々にクレドを携帯し、ホームビジョン“お一人お一人の、想いの実現のために、”を会議の場で話材にしています。日頃のケアの場面ごとにもクレドの確認を行い、繰り返すことによって自然に身につけ、意識につなげていけると管理者は受け止めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事、近隣の小学校、保育園へ定期的にかかわらせていただき、交流を図っている。	利用者と共に海岸清掃を継続しています。小学校の学習発表会や運動会に招待を受けたり、保育園児が“お花の日、に花を届けに来てくれます。毎月ギターや尺八の演奏会もあり、家族が所属するコーラスの訪問もあります。	地域性もあり近所とのつきあいは難しいと思われませんが、事業所から積極的に地域へ出向いて関係を築いていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への発信源にはなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催で、ご家族様、地域の方々への活動報告を行っている。	定期開催され、地域包括支援センター職員、民生委員、家族の参加があります。写真を交えた活動報告を行い、また民生委員からの情報提供の場ともなっています。前・民生委員の出席もあり地域住民としての声も反映されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が月に1度訪問していただき、客観的なご意見を頂いている。	市職員の運営推進会議参加は叶っていませんが、窓口で直接出向いて連携を図っています。また、地域包括支援センターからは感染症や地域活動の情報を得られ運営に活かしています。介護相談員を通じて「編み物がしたい」といった利用者の声を伝えてもらうこともあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い意識を高めるよう努めている。	玄関は施錠していません。スピーチロックについては、忙しい時には職員主導の対応になりがちですが、「自分が言われたらどうか」利用者目線で反省につなげ、知識テストで振り返ったり、会議を通じて話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部研修を定期的に行い虐待の防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話し合う機会をまだ設けていない。今後は、全体研修の議題として取り上げ学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様のご理解をいただけるように、必要に応じて繰り返し説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケートを実施して、ご意見をいただき改善していくようつとめている。	運営推進会議や法人アンケートで意見や要望を聞く機会があります。面会があった時には直接話ができる機会と捉えて大切にしており、また日々の本人の様子がわかるよう写真も添え、家族に毎月郵送しています。	事業所と個々の家族の理解は進んでいますが、今後は家族同士の交流が深まることへの取組を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、スタッフアンケートを実施し、又、ホーム内の会議の中でも意見や要望の抽出に努めている。	新たに設けた各委員会で活発な意見が交わされ、職員の参画意識が向上しています。会議の場で発言しにくかった意見は直接管理者の耳に届いており相談しやすい関係が築かれています。個人面談も随時行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションを図り、そのスタッフが求めているもの、困っていることを把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフの能力、精神状態を考慮し、仕事の役割を持ってもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加し交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	数回のアセスメントを実施し、出来るだけ多くの情報を御本人、ご家族からいただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人と同様に、コミュニケーションを図り、ご家族様の想いを把握する事でスムーズなご入居につなげられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでの情報をユニット全体で共有し、新しい生活が始まる不安が無いような適切なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずは、その人のことを深く理解するよう努め、自然な形でホームに馴染んでいただけるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や病院受診への同行をお願いし、協力して御本人を支えていきたいという想いを伝えながら関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人の面会時にはスタッフも挨拶をさせていただき、写真を撮ったり、手紙を頂いたりできるよう配慮している。	自宅から一時間かけて歩いて面会に来る家族もあります。家族の協力でお墓参りに出かける人、馴染みの床屋や編み物・新聞といった習慣を継続している人もいます。手紙が来た時は返事を出す支援をしたり、クリスマスカードを作成して自宅に出しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活が心地良いものであるためにはスタッフとの関係は勿論だが、他の入居者様との自然な繋がりが重要なので、相性なども考慮し、日々の交流に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても電話対応や、必要に応じてのご自宅への訪問を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の想いの把握をホームビジョンとして掲げ、その人らしいということを元にして検討している。	入居時のアセスメントは、計画作成担当者だけでなく職員も複数回訪問して、関係を築くことから始めています。自室の様子を把握して寝起きの動線と同じにするといった“環境作り、が大事と考えています。場面の中での発語は介護記録に記載し、プランの作成につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントと、入居後も情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、介護記録などで情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合っている。ご家族様の参加の機会が無い為、今後は機会の創出を検討しなければならない。	家族の要望は面会時や電話にて確認しています。3ヶ月ごとにモニタリングと見直しを行い、担当職員が記入した気づきシートをもとにカンファレンスを行い、計画作成担当者がまとめています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、日報、申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散歩、外食の機会を設けて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と、その都度必要に応じての受診を行っております。	月に2回の往診があり、安心感からほとんどの人が協力医に変更しています。かかりつけ医の受診は家族にお願いしていますが、必要に応じて書面で身体状況を情報提供しています。受診結果は受診記録に落とし込み、共有しています。協力歯科の訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録、バイタルチェック表、受診報告書の情報をを共有し適切な医療が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ何度も足を運び御本人様の状態の把握に勤め、ご家族様との連絡を密に取り、必要に応じてDr、Nsへの確認も取らせていただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアへの取り組みについては知識も実績もほとんど無いのが現状、医療依存が無い状態であればホームで出来る限り生活していただけるよう支援している。	看取りの実績はありませんが、重篤な状態になった利用者があり、職員の精神面へのフォローも必要であると捉えています。重度化に際しては家族と医療双方の協力体制のなかで検討し、職員の意識向上への取組も視野に入れています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後も定期的な研修を行い、知識、技術の習得に努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での訓練の他、地域での訓練に参加できる時は参加している。訓練を重ねていくことが重要であると考えている。	年2回、消防署の立ち会いも含めて訓練を行い、地震想定では2階へ、火災想定では外に避難しています。地域の訓練には利用者とともに避難地まで実際に歩くことも試みています。運営推進会議の場で地域への協力を呼びかけますが、地域性もあり難しい状況にあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に接遇を意識した対応ができていなければならぬが出来ていない場面もあり、意識の徹底が必要だと感じる。	“ちゃん、づけはしない方針ですが、本人に馴染みのある呼び方であれば家族意見を尊重し従っています。内部研修で接遇について学ぶ機会があり、相手によって適切な距離感は異なることを理解したことから、職員の行動に反映することを管理者は期待しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選択できる場面ではご自分で決めていただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り要望にこたえられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の趣味や人柄に配慮した支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房一体型の施設ですが、週に1回以上はユニットでの調理を行ったり、希望の献立をうかがったり、メニューを一緒に書いていただくことで食事が楽しみであり続けられるよう支援している。	普段は厨房で専任者が作っていますが、誕生日には外食したり、週に一度、好みや希望を聞きながらカレーやハンバーグを利用者とする“調理レク”の日があります。買い出しにも一緒に出かけ、盛り付けや配膳はできる人が協力しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を活用し、把握に努め、嗜好に応じた配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで状態の把握、清潔の保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの状態を把握するよう努めている。排泄委員会を設置し、その方の能力に応じて現状の改善に取り組んでいる。	排泄委員会を結成して外部講師を招き勉強会を行いました。リハビリパンツから布パンツに移行した例もあり、これにより職員のモチベーションもあがっています。他事業所の事例報告を参考に、便秘対策への理解を深めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師、医師とも連携し、便秘予防に努めている。排泄チェック表、水分摂取表をもとに個別に検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤の活用をしている。希望に近づけるよう配慮している。	湯を一人ひとり張り替え、「一番風呂」が楽しめます。洗身用タオルは、ガーゼや綿、ナイロンと、好みや肌に合ったものが用意されています。マットや浴室の椅子には滑り止めが敷かれ、安全面への配慮も視認しました。夜間、家族の協力で入浴する人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お1人お1人の生活パターンの把握に努め、それに合わせた支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に理解に努めている。変更の際は受診報告書で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活を考慮する事と、新たにホームでできる事を探したりする事でメリハリのある生活を過ごしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、お墓参り、親戚宅への外出など支援している。	天候がよければ外気浴や散歩に取り組んでします。回転寿司や日本平、バラ園と外出機会は豊富ですが、その人の心が動いた時に一緒に出掛けられたら一番良いと考えています。昔を思い出す地域行事のアサリまつり、七夕まつりは大変喜ばれています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意を得ている方に限っては個人で小額の小額を所持しておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があればホームの電話を利用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場としての意識を持ち、過度な装飾になり過ぎないように配慮している。	居室入口は担当職員による個性豊かな表札が掲げられ、目を惹きます。壁には家族から贈られたシンプルな竹の装飾品が数多くあり趣が感じられます。週に一度掃除の時間を設けて利用者全員でおこない、できることを分担しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係にも配慮しながら、ホームの中での居心地が良いと思われる場所を理解するよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたもの、馴染みのある物を置いていただき、ご自分の居心地の良い部屋作りに配慮している。	洗面台とエアコンが備え付けでベッドとカーテンが持ち込みです。植物が好きな人の居室には鉢植えが並んでいたり、一人掛けのソファや冷蔵庫、仏壇、タンスが置かれ、家族の写真や好きな歌手のポスターが貼られ、居心地よく過ごせる工夫が随所に見られました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、出来ないことを把握するように努め、ご自宅での生活に近づけられるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201025		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム三保松原(2F)		
所在地	静岡県静岡市清水区三保2432-2		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成25年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お1人お1人の想いの実現のために」というビジョンのもと、その人の想いを知る為にその人のことを深く知ることが重要だと考えています。相手の立場に立ち、まずは、ストレスを与えないケアを心がけ、その方の想いに寄り添える関係作りに努めています。又、ただの施設利用者ではなく、地域住民として生活していただくために、海岸清掃活動を定期的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世界遺産となった三保松原にほど近い事業所で、目の前の道路には観光バスが頻回に訪れるようになりました。“三保をきれいにし隊、と銘打って毎月利用者と共に海岸清掃を行ってきましたが、継続してきた誇りと、これからも人の役に立ちたいという想いを広く発信したらどうかとの声があがり、新聞社から取材の話も出ています。利用者全員で役割を担う週に一度の掃除、洗濯物干しや片付け等、生活リハビリを通して生き活きと暮らす様子は法人内の“ふれあいあったかフォトコンテスト、で入賞した作品に示されています。本年度は新たに排泄・環境美化・行事の委員会を作り、職員の今後の成長が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、出社時に唱和して全員が意識できるよう努めている。	職員個々にクレドを携帯し、ホームビジョン“お一人お一人の、想いの実現のために、”を会議の場で話材にしています。日頃のケアの場面ごとにもクレドの確認を行い、繰り返すことによって自然に身につき、意識につなげていけると管理者は受け止めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事、近隣の小学校、保育園へ定期的にうかがわせていただき、交流を図っている。	利用者と共に海岸清掃を継続しています。小学校の学習発表会や運動会に招待を受けたり、保育園児が“お花の日、に花を届けに来てくれます。毎月ギターや尺八の演奏会もあり、家族が所属するコーラスの訪問もあります。	地域性もあり近所とのつきあいは難しいと思われませんが、事業所から積極的に地域へ出向いて関係を築いていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への発信源にはなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催で、ご家族様、地域の方々への活動報告を行っている。	定期開催され、地域包括支援センター職員、民生委員、家族の参加があります。写真を交えた活動報告を行い、また民生委員からの情報提供の場ともなっています。前・民生委員の出席もあり地域住民としての声も反映されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が月に1度訪問してくださり、客観的なご意見を頂いている。	市職員の運営推進会議参加は叶っていませんが、窓口で直接出向いて連携を図っています。また、地域包括支援センターからは感染症や地域活動の情報を得られ運営に活かしています。介護相談員を通じて「編み物がしたい」といった利用者の声を伝えてもらうこともあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い意識を高めるよう努めている。	玄関は施錠していません。スピーチロックについては、忙しい時には職員主導の対応になりがちですが、「自分が言われたらどうか」利用者目線で反省につなげ、知識テストで振り返ったり、会議を通じて話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部研修を定期的に行い虐待の防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話し合う機会をまだ設けていない。今後は、全体研修の議題として取り上げ学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様のご理解をいただけるように、必要に応じて繰り返し説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケートを実施して、ご意見をいただき改善していくようつとめている。	運営推進会議や法人アンケートで意見や要望を聞く機会があります。面会があった時には直接話ができる機会と捉えて大切にしており、また日々の本人の様子がわかるよう写真も添え、家族に毎月郵送しています。	事業所と個々の家族の理解は進んでいますが、今後は家族同士の交流が深まることへの取組を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、スタッフアンケートを実施し、又、ホーム内の会議の中でも意見や要望の抽出に努めている。	新たに設けた各委員会で活発な意見が交わされ、職員の参画意識が向上しています。会議の場で発言しにくかった意見は直接管理者の耳に届いており相談しやすい関係が築かれています。個人面談も随時行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションを図り、そのスタッフが求めているもの、困っていることを把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフの能力、精神状態を考慮し、仕事の役割を持ってもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加し交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	数回のアセスメントを実施し、出来るだけ多くの情報を御本人、ご家族からいただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人と同様に、コミュニケーションを図り、ご家族様の想いを把握する事でスムーズなご入居につなげられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでの情報をユニット全体で共有し、新しい生活が始まる不安が無いような適切なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずは、その人のことを深く理解するよう努め、自然な形でホームに馴染んでいただけるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や病院受診への同行をお願いし、協力して御本人を支えていきたいという想いを伝えながら関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人の面会時にはスタッフも挨拶をさせていただき、写真を撮ったり、手紙を頂いたりできるよう配慮している。	自宅から一時間かけて歩いて面会に来る家族もあります。家族の協力でお墓参りに出かける人、馴染みの床屋や編み物・新聞といった習慣を継続している人もいます。手紙が来た時は返事を出す支援をしたり、クリスマスカードを作成して自宅に出しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活が心地良いものであるためにはスタッフとの関係は勿論だが、他の入居者様との自然な繋がりが重要なので、相性なども考慮し、日々の交流に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても電話対応や、必要に応じてのご自宅への訪問を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の想いの把握をホームビジョンとして掲げ、その人らしいということを元にして検討している。	入居時のアセスメントは、計画作成担当者だけでなく職員も複数回訪問して、関係を築くことから始めています。自室の様子を把握して寝起きの動線と同じにするといった“環境作り、が大事と考えています。場面の中での発語は介護記録に記載し、プランの作成につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントと、入居後も情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、介護記録などで情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合っている。ご家族様の参加の機会が無い為、今後は機会の創出を検討しなければならない。	家族の要望は面会時や電話にて確認しています。3ヶ月ごとにモニタリングと見直しを行い、担当職員が記入した気づきシートをもとにカンファレンスを行い、計画作成担当者がまとめています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、日報、申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散歩、外食の機会を設けて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と、その都度必要に応じての受診を行っております。	月に2回の往診があり、安心感からほとんどの人が協力医に変更しています。かかりつけ医の受診は家族にお願いしていますが、必要に応じて書面で身体状況を情報提供しています。受診結果は受診記録に落とし込み、共有しています。協力歯科の訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録、バイタルチェック表、受診報告書の情報をを共有し適切な医療が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ何度も足を運び御本人様の状態の把握に勤め、ご家族様との連絡を密に取り、必要に応じてDr、Nsへの確認も取らせていただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアへの取り組みについては知識も実績もほとんど無いのが現状、医療依存が無い状態であればホームで出来る限り生活していただけるよう支援している。	看取りの実績はありませんが、重篤な状態になった利用者があり、職員の精神面へのフォローも必要であると捉えています。重度化に際しては家族と医療双方の協力体制のなかで検討し、職員の意識向上への取組も視野に入れていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後も定期的な研修を行い、知識、技術の習得に努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での訓練の他、地域での訓練に参加できる時は参加している。訓練を重ねていくことが重要であると考えている。	年2回、消防署の立ち会いも含めて訓練を行い、地震想定では2階へ、火災想定では外に避難しています。地域の訓練には利用者とともに避難地まで実際に歩くことも試みています。運営推進会議の場で地域への協力を呼びかけますが、地域性もあり難しい状況にあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に接遇を意識した対応ができていなければならぬが出来ていない場面もあり、意識の徹底が必要だと感じる。	“ちゃん、づけはしない方針ですが、本人に馴染みのある呼び方であれば家族意見を尊重し従っています。内部研修で接遇について学ぶ機会があり、相手によって適切な距離感は異なることを理解したことから、職員の行動に反映することを管理者は期待しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選択できる場面ではご自分で決めていただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り要望にこたえられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の趣味や人柄に配慮した支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房一体型の施設ですが、週に1回以上はユニットでの調理を行ったり、希望の献立をうかがったり、メニューを一緒に書いていただくことで食事が楽しみであり続けられるよう支援している。	普段は厨房で専任者が作っていますが、誕生日には外食したり、週に一度、好みや希望を聞きながらカレーやハンバーグを利用者とする“調理レク”の日があります。買い出しにも一緒に出かけ、盛り付けや配膳はできる人が協力しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を活用し、把握に努め、嗜好に応じた配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで状態の把握、清潔の保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの状態を把握するよう努めている。排泄委員会を設置し、その方の能力に応じて現状の改善に取り組んでいる。	排泄委員会を結成して外部講師を招き勉強会を行いました。リハビリパンツから布パンツに移行した例もあり、これにより職員のモチベーションもあがっています。他事業所の事例報告を参考に、便秘対策への理解を深めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師、医師とも連携し、便秘予防に努めている。排泄チェック表、水分摂取表をもとに個別に検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤の活用をしている。希望に近づけるよう配慮している。	湯を一人ひとり張り替え、「一番風呂」が楽しめます。洗身用タオルは、ガーゼや綿、ナイロンと、好みや肌に合ったものが用意されています。マットや浴室の椅子には滑り止めが敷かれ、安全面への配慮も視認しました。夜間、家族の協力で入浴する人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お1人お1人の生活パターンの把握に努め、それに合わせた支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に理解に努めている。変更の際は受診報告書で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活を考慮する事と、新たにホームでできる事を探したりする事でメリハリのある生活を過ごしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、お墓参り、親戚宅への外出など支援している。	天候がよければ外気浴や散歩に取り組んでします。回転寿司や日本平、バラ園と外出機会は豊富ですが、その人の心が動いた時に一緒に出掛けられたら一番良いと考えています。昔を思い出す地域行事のアサリまつり、七夕まつりは大変喜ばれています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意を得ている方に限っては個人で小額の小額を所持しておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があればホームの電話を利用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場としての意識を持ち、過度な装飾になり過ぎないように配慮している。	居室入口は担当職員による個性豊かな表札が掲げられ、目を惹きます。壁には家族から贈られたシンプルな竹の装飾品が数多くあり趣が感じられます。週に一度掃除の時間を設けて利用者全員でおこない、できることを分担しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係にも配慮しながら、ホームの中での居心地が良いと思われる場所を理解するよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたもの、馴染みのある物を置いていただき、ご自分の居心地の良い部屋作りに配慮している。	洗面台とエアコンが備え付けでベッドとカーテンが持ち込みです。植物が好きな人の居室には鉢植えが並んでいたり、一人掛けのソファや冷蔵庫、仏壇、タンスが置かれ、家族の写真や好きな歌手のポスターが貼られ、居心地よく過ごせる工夫が随所に見られました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、出来ないことを把握するように努め、ご自宅での生活に近づけられるよう配慮している。		